



令和1年11月30日(土) 秋の多摩湖ウオーキング

### 新年度を迎え、支部長辞任について

支部長 今井 康之(昭32経営)

新年度を迎え、校友の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

当地域支部は、今年で設立九年を迎えることができました。これも会員の皆様、地域の皆様のご支援、ご協力、多摩各地域支部の皆様のご支援の賜物と感謝しております。

私は、平成二十九年五月に発展途上にある清瀬地域支部の二代目支部長に就任させていただきました。

爾後、支部発展へ情熱をもち職務にあたってきました。しかし、私の突然の病。入院後、早期復帰を目指し、懸命にリハビリに努めてきましたが、未だ快復せず、忸怩たる思いでありました。

今年一月の懇談会で体調の説明をし、無念ながら支部長の職を辞任する旨お願いしました。その後、幹事長、副支部長と協議の結果、後任に中村副支部長に年度末まで支部長職務代行にあたってもらい、次期総会に新支部長の選任をお願いすることになりました。

今後の地域支部活動に変わることはありません。役員はじめ会員の皆様には引き続き一層のご支援、協力をお願い申し上げます。なお、私は今後、一役員としてできるかぎり会の発展のお役に立つよう努力するつもりであります。

来年は設立十周年を迎えます。十周年の記念事業は未だ決まっていませんが五周年記念行事を踏まえ、ご検討いただければと願っています。

現在取り組んでいる新会員の増加、特に六十歳代の若手、女性会員の入会促進については着実に成果を上げており、今後とも継続活動として一層のご努力と成果を期待しています。

これまで、役員の皆様には献身的なご努力ご協力に感謝申しあげ、引き続き清瀬地域支部の発展にお力をいただきたくお願いいたします。

## 令和元年度の活動を振り返って

幹事長 粕川 偉三男(昭48年政経)

今年には地域支部設立九年を迎えます。設立十周年に向けて会員一同、日々張り切って活動しております。

令和二年度の総会を前に昨年の活動を振り返ってみたいと思います。

定時総会では従前に増し、より具体的な事業を設定し活動してまいりました。

定例の月一回の「懇談会」では母校の現状や近隣地域支部の情報、また会員相互の情報交換等活発な意見交換を行いました。

昨年は「新規会員」加入促進のために、例年に増した活動を行ってまいりました。「ホームカミングデー対象年次」「現役リタイア世代」などを中心に校友宅を訪問し入会促進活動を行った結果、数名の方が入会しました。しかし目標には遠く及ばず、更に戦術を練り直して入会促進活動を行ってまいります、同時に懸案である「女性会員」入会促進活動を展開し、より多くの方に入会していただけるよう活動してまいります。

文化活動は「紫紺句会」を中心に、今後は「パソコン教室」などを検討してまいります。

また体育会活動(?)としては「多摩湖ウォーキング」「柳瀬川回廊散策」などを充実させ、会員の相互コミュニケーションを図ると同時に、ご入会いただく皆様により魅力的な「校友会」にしてまいりますので、より一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

### 清瀬地域支部の定時総会にご出席ください!

◎日時 五月二十日(日)午後一時三十分から

◎会場 清瀬市生涯学習センター六階(アミュー)

◎懇親会 午後二時三十分から(場所未定)

◎会費 二千元

## 新会員の加入促進活動報告

佐藤 房夫(昭39工)

清瀬地域支部は設立八年が経過し、会員も高齢化しております。一方、定年延長や年金支給年齢の引き上げ、また、人手不足等により七十歳過ぎても働く方が多くなっています。このため地域のサークル活動に参加する方が減っています。当支部もこれまで様々な加入促進活動を行ってきましたが、目立った実績は得られませんでした。

令和元年は視点を変えて次の二点に絞りました。

① 六十〜七十歳の対象者

② ホームカミングデー対象者

この方々に出来るだけ面談して、勧誘する方針としました。地域別に役員を振り分け、手分けして十月〜十一月にかけて促進活動を実施しました。面談するため土、日曜日などの在宅時を狙って訪問し、留守の場合は数回訪問するなど役員の方々は熱心に活動しました。この結果、二名の方が入会されました。また数名の方からも良い感触をえられました。この方たちは今後もアプローチする必要があります。

今回の経験から、入会はタイミングなのだ実感しました。

会員の方々の校友会に対する情熱と熱意と努力に感謝いたします。

女性の卒業生も多くなっていますが、校友会に入る方はどの支部も少数です。令和二年は第二弾として、四十〜七五歳の女性を対象に入会促進活動を行う方針で、いろいろ準備を進めております。

女性会員が増えて、女子会が出来るようになれば幸いです。

会員皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

## 全国校友千葉大会の参加報告

永代 達三(昭48政経)

「第五十五回明治大学全国校友千葉大会」は令和元年十月五日、六日の二日間「やっさい!もっさい!おっさい!! 来たいよ総の国」を合言葉に行なわれました。五日には「東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾート」で前夜祭、六日には「幕張メッセ」で記念式典、記念講演会、懇親会は「ホテルニューオータニ幕張」において、日本全国の校友会支部と海外支部から約一六〇〇人の校友とその関係者が一堂に会し盛大に開催されました。

当日は隣県である千葉での開催ということもあり、本大会に清瀬地域支部から中村副支部長、粕川幹事長と私の三名が参加しました。東京都多摩支部からも當麻支部長をはじめ多くの方々も参加しました。

記念式典は、例年通り大会旗の入場で始まり、司会はタレントの渡辺正行さんとTBSアナウンサーの高畑百合子さんが勤めました。

国歌斉唱、校歌斉唱、千葉県支部長の歓迎の挨拶、北野校友会長の挨拶、柳谷理事長、土屋学長、須藤連合父母会長から祝辞、森田健作千葉県知事のビデオメッセージ、熊谷千葉市長から来賓祝辞。

さらに次回開催の玉越香川県支部長から全国の支部長を代表し挨拶並びに、令和二年九月五、六日に開催される「第五十六回全国校友香川大会」のPR。

その後、万歳三唱を参加者全員で行い無事終了しました。



## 家族で参加したホームカミングデー

山岡 幹一郎(平11文)

### ① 家族でホームカミングデーを迎えて

昨年の十月二十七日に卒業後二十周年ということで、特別招待会員としてホームカミングデーに行ってきた。

また、妻や子供たちに母校を紹介するいいチャンスだと思います、妻と五歳の長男、三歳の次男、一歳の長女を連れて行きました。ベビーカーでリバイタワーへ行ったのですが、着いてすぐに現役生が迎えて、記念品引き換えコーナーに案内してくれました。

子供たちにとって、現役生はいいお兄さん、お姉さんで、少しの間、遊んでもらえたこともあってとても満足した様子でした。

妻は、サポーター奨学金のくじ引きを二枚買い、「お蕎麦」を引き当てて満足していました。

もう一枚は、五百円の商品引き換え券で、二階に設けられた物産コーナーで「明大合格せんべい」と引き換えて子供たちに食べさせました。

エントランスで行われた合唱部の演奏をしばらく聞いた後、引き上げて神保町へ向かい、「さぼるる2」でお昼ご飯を食べました。思い出に残るとも素敵な一日になりました。



(自分の受験時より難しくなってしまうって入学できるかどうか(笑))



### ② キャッシュレス決済のお話

忘年会の席で、「今なぜキャッシュレスか」というタイトルで少しお話をさせて頂きました。

本稿では、当日の内容を補足して説明させて頂きます。キャッシュとは現金のことで、キャッシュレスは現金に変わる代替のものです。具体的にはクレジットカードや電子マネー、デビットカード、バーコード決済のことです。

キャッシュレスのメリットは、現金をやりとりしないので、お金の管理が必要がなくなることで、購入履歴が残り、あとから追跡できること、お客さんには、ポイントなどのキャッシュバックがあることです。

デメリットは、店舗で手数料を負担する必要がある、その分経費がかかること、停電時には使えないことです。偽札の問題が多い海外(特に中国)を中心にバーコード決済等のキャッシュレスが進んでいます。またEU等では高額紙幣が使えなくなり、現金は小銭のみ使え、通常はキャッシュレス決済で行うという流れになりつつあります。各国とも取引が追跡できるキャッシュレスは、現金取引に比べると税金の計算が簡単で、脱税を防げるので推進したいという思惑もあります。

ところで、我々のスタンスとしては、キャッシュレスは無理なく使うことが大切です。何も無理にお得だからといってバーコード決済を始める必要はないのです。キャッシュレス決済もたくさんあるので、その中で一つか二つぐらいに絞って使うと管理がしやすいです。

家計の管理から言えばキャッシュレスは、あとから口座引き落としがある場合が多いので、預金の残高は定期的にチェックする必要があります。

(破綻しては元も子もありません)

無理のない範囲で、キャッシュレスのキャンペーンを利用して消費増税に対する生活防衛をなされるとよいと思います。

(※山岡さんご投稿の「新型コロナウイルス対策」は清瀬地域支部ホームページに掲載中です)

## 初冬の多摩湖畔を歩く

穴田 作道(昭38政経)

令和元年の十一月は、例年に比し天候不順で雨の日が多い月でした。

そうした中、三十日(土)は、これ以上の快晴はないという恵まれた日になり「第七回多摩湖ウォーキング」が行われました。

参加は総勢二十二名。(校友九名、国分寺支部校友一名、一般市民十二名)

今回から湖畔半周の六kmのコースに変更となり、どなたでも容易に歩ける距離になりました。

当日、集合場所が急遽、参加を希望された方があり驚きました。聞けば市内の施設に入所されている九十歳の男性の方で、市報で知ったとのことでした。(市報掲載の効果大)

集合の西武球場前。軽くストレッチ・・・さあスタートです。

コース周辺の落葉樹は茶系が多く、いわゆる「紅葉狩り」とはいきませんが、遊歩道の前方左右から迫ってくる楓・樺(はぜ)・銀杏・桜などの紅葉を愉しむことができました。曲がり角の先にはどんな景色が・・・と期待するのも楽しみです。

また、雑木林の切れ間からは、朝陽の当たる湖水や街並みを見ることができました。

自分のペースで歩きながら、コース特有の湖水・樹林・陽光・風など日本の四季を実感できるウォーキングとなりました。

道中、参加者の会話も弾み、およそ二時間で時計のある場所に到着し、記念写真を撮りました。

この場所で烏瓜が十個ほどが成る蔓を発見。いくらか小ぶりでしたが、真っ赤な実は周囲に際立ち、一万歩完歩の疲れを癒してくれたように思いました。

(博識の校友の言「烏瓜の種は、「打出の小槌」に似ていることから、昔から縁起物として、がま口などに入れる

人が多かった。また、烏瓜は食べることもできるとのことです。今回の参加者の中に、一周十二kmコースやお弁当を湖畔で摂りたいと希望される方もおり今後再検討する必要があると考えます。



解散後は、清瀬に戻り今井支部長も同席での昼食会となりました。

### みんなで日枝神社に参拝しよう

齊藤 強 (昭39工)

一月十九日、中清戸の日枝神社参拝に行つて来ました。校友五名が参加しました。破風の付いた山王鳥居をくぐり、広い境内に入ると由緒ある三猿の石灯籠他いろいろな神を祀る社が有り、興味をそそられます。

先ず各々が日枝神社、水天宮と参拝し、今年の無事をお祈りしました。

境内を眺めまわし、先ず目を曳いたのは手水舎でした。総けやき造りで力強い四本柱に支えられ、平入りに唐破風を設け、飾り懸魚と妻側には、猪の目懸魚を付けた銅板葺きの屋根を持つ手水舎です。

柱は【四方転び】と言って四本とも建屋の芯に向い内側に傾け、四方吹き放しとなった日本古来の匠の技法です。



四方転びの柱は、寺の鐘楼によくみられる技法です。それぞれの柱には、几帳面と言われる面が施されています。几帳面とは良く聞く言葉ですが、これに由来した言葉と聞きました。かくの如く古建築は匠の技の宝庫です。

この度は四方転びの柱を取り上げましたが掘り下げたらきりが無いほど昔の宮大工の美意識と言うか究極の技を追求する姿には頭の下がる思いが致します。今までと違った目で、物を見るのも楽しみ方の一つとして良いかと思っています。



### 校友会入会にあたって

溝田 充昭(47法)



昨年九月から、長らく憧れであった「毎日が日曜日」となりました。退職することが決まっただけからにはあれもしたいこれもやってみようと思いが躍り、「これからは、第一の人生」「まだまだこれからだ」と気分は爽快でした。日常の煩わしさから解放され、長い間苦しんだ肩こりも首の痛みも治るだろう。満員電車ももう少しの辛抱。

しかし、思い通りにはいきません。やりたいことはありましたが、一寸考えただけで難しいことが分かり、あっさりとは断念。他に何の準備もせず予定も立てず、漠然としたイメージのままその日を迎えました。

翌日からは「とにかく当分ゆっくりしよう」「急ぐことはない、時間だけはある」とダラダラと過ごすようになりました。生活のリズムがつかめない。朝起きてても用事がないと、テレビを眺めています。これではいけない、身体がおかしくなる。早速、スポーツジムに入会、毎日まじめに通います。身体を鍛えて、さあどうしよう。喫茶店、書店、図書館、映画館、散歩などで暇をつぶしますが、時間だけはたっぷりあります。しかし、こんなことが長く続くはずありません。そもそも、活動範囲が狭く、発想も貧困です。

そのような時、知人から「第二の人生、まだこれからなどと考えること自体、老化現象の始まり。人生下り坂、急がずゆっくり歩いてゆくと、今迄気づかなかったものが見えてくる。暇を楽しみながら、これまで通り行き当たりばったりでいいじゃないか」とアドバイスを受け素直に納得。これからは自然体で、何気ない日常を大切にしたいと思っております。

このような時にお誘いを受け校友会に入会しました。無理せず自然体で各種イベントにも参加したいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

## 野鳥観察会に参加しました

福島 寛 (昭37政経)

二月一日に、「清瀬の自然を守る会」主催の野鳥観察会に参加してきました。会場は金山緑地公園及び金山調節池です。今回は校友会から五名の参加です。

幸い風もなく温かい日に恵まれました。まず、すぐにツグミを発見。皆双眼鏡を取り出し一心に覗きます。

柳瀬川沿いに咲いているツバキには、メジロが花から花へと飛び回っています。体の小さなコゲラが木の周りを動き回っています。枯れ葉とドングリの中を進んで行くと、くちばしの黄色いムクドリが来ました。少し進むと太いくちばしと喉の辺りが黒いシメが枯れ葉の上を歩いています。公園沿いの柳瀬川にはマガモの家族でしようか、五、六羽ゆうゆうと泳いでいます。川と石垣の間には、セキレイが石垣を登っていく可愛い姿を見せています。通常、この川沿いには毎年十数名のアマチュアカメラマンが、望遠カメラを固定してカワセミの美しい姿を撮ろうと待ち構えているのですが、今年は一人も居ませんでした。



解説員の説明によると、今年は暖冬の影響でカワセミの姿を見せないそうです。我々も今年は見られないかと少々がっかりです。しかし、調節池に回った時、待望のカワセミが一羽おりました。解説員がフィールドスコ

ープを固定し、皆で覗き込みました。いつ見ても綺麗な鳥です。調節池に回ると、池

の中の木立に、ダイサギとコサギがゆうゆうと羽を休めていました。またアオサギは民家の大屋根の上に、まるで我が家のようにじっと留まっています。最後にタシギを見ることができました。まるで枯れ葉と同じような保護色の上、あまり動かないので見つけるのが難しいそうです。それでもじっとしている一羽を羨みの中で見つけ、皆でフィールドスコ

ープを覗き込みました。今年には全般的に野鳥の数が少なかったとのことですが、それでも満足のいく野鳥観察会でした。今回見られた野鳥の数は二十九種類とのことでした。

参加者は全員で三十六名でした。



## 麻雀大会と青春時代の思い出

村野 良明昭47政経

令和二年三月二日、第十三回明大校友会清瀬地域支部主催の麻雀大会が麻雀荘「たんぼぼ」にて開催されました。コロナウイルスもなんのその、元気に和やかな楽しい一時を過ごしました。

しつとりとした麻雀牌の感触を楽しみながら遠い昔の麻雀との出会いの頃を思い出しました。決して他人に話すような事ではなく、記憶の奥に封じ込めていた「青春時代の吹き出物」みたいな一コマです。

今ではすっかり姿を消してしまっただ「学生下宿」、普通の家の空き部屋を学生に賃貸。私達が「アジト」とか「ねぐら」とか呼んでいた仲間の下宿はJR阿佐ヶ谷駅から十分位のところにありました。木造二階建の古びた家の二階の一部屋、一階部分は大家さんの住居で出入口は大

家さんと共同の玄関。特に悪い事をしていない訳でもないのに、玄関を通る時は緊張を強いられました。玄関に入ると右脇の階段を足音を忍ばせ小走りに、二階にはトイレのほか、手洗い用の洗面台が一つ、部屋の扉は襖戸でした。四畳半の真ん中に点灯用のヒモのついた蛍光灯、その下にコタツ（これが万能テーブル！）そんな部屋に夕方になると一人二人と仲間が集まります。和やかに談笑、時には激論を交わすことも。それでも人数が揃うと誰ともなく夜を徹しての麻雀。

そんな怠惰な非生産的な日々を心から楽しんでる訳では決してありませんでした。昭和四十年代の半ばは学生運動が激しく、また、「よど号ハイジャックの事件」「三島由起夫の防衛庁占拠、割腹事件」「凄惨な浅間山荘事件」等々は私達に大きな衝撃を与えました。それでも学生運動一連の活動には納得できず無関心を装いながらも心は悶々としていました。もてあまし気味の体力の発散場所が見つからず、悶える気持ちを抑え込みながら「アジト」に通っていました。誰もこれで良いとは思っておらず、かといってお金も持っていない私達には暴発しかねないエネルギーを鎮める方法には他にありませんでした。

青春時代が爽やかとか純粋とか美化されることが多いですが、現実には未成熟な若者達が脱皮の苦痛に喘いでいる時期でもあったのではないのでしょうか。

神様が『もう一度あの頃に戻してあげよう』と言ってきたら、静かにお断りするでしょう。

麻雀牌を握りしめた時ふと頭をかすめたあの頃のヒトコマです。

五十年を経て言える懐かしさも恥ずかしい青春時代を蘇らせてくれた麻雀大会でした。



## フォト・エッセイシリーズ ⑤

フォト・エッセイ清瀬その式

粕川 偉三男 (昭48政経)

「昨年、清瀬市郷土博物館で「清瀬市郷土博物館友の会」主催の「清瀬、平成の記憶フォトコンテスト」が開催され、清瀬の風景が余すことなく写真に表現された写真展を楽しまれた方もおられたと思います。四季折々の自然風景、四季折々の風俗、又風景に溶け込んだ建物等々、あらためて清瀬の自然の豊かさを再確認させていただきました。

私はアマチュアカメラマンの端くれですが、昨年に続き年末の富士山をカメラに収めてみました。フォトコンテストに入選された方々の足元にも及びませんが、私なりの清瀬の富士山を写真に撮って楽しんでおります。



清瀬から望む「雪をまとった富士山」

うと思っ今日この頃です。桜に始まり向日葵、コスモス

川周辺を歩き回り、雪をまとった富士山をカメラに収めました。普段の運動不足が災いし、すぐに息が上がりましたが富士山の撮影を満喫しました。清瀬には魅力的な場所が沢山ありますので体力の許す限り写真を楽しんでゆこ

と続き黄葉の銀杏並木、雪景色の畑と楽しみが広がります。

さて、令和二年年末の富士山はどんな風景でしょうか。

### 「紫紺句会」に参加して

東久留米地域支部 夏目 忠 (昭32商)

平成三十年一月から紫紺句会にお世話になっております。

私の支部の事業活動の一つに隣接地域支部との交流があります。年二回開催の明球会ゴルフコンペには小平・新座から校友の参加が九年続き成果を得ておりますが、文化面での交流が乏しく悩んでいたところ、義江東久留米支部長が多摩支部の役員会に出席した折に、清瀬地域支部では「西の松山・東の清瀬」を目指して俳句活動が盛んで月一回句会形式の「清瀬紫紺句会」を開き、他支部の方も参加されているとの情報を得ました。また全国規模の「石田波郷俳句大会」を取り仕切っているところか、さっそく義江支部長を繋ぎに入会をお願いしたところ、榎谷代表、粕川副代表様から丁寧な入会歓迎のメールを頂き入会し三年目に入ります。私の年間の予定表の第三日曜日はすべて「清瀬紫紺句会」と記入されております。

私は六十七歳で仕事から引退。これからは仕事一筋の人生からおさらばし、自由気ままに楽しく学べるものがないかと探したところ、母校明大の生涯学習のパンフレットを手にするのができ、その中から興味のある古典文学・歴史・俳句の三講座を選び駿河台へ通い始めたのが俳句との係りの初めです。平成十四年の事になります。

現在、明大句会・ネット句会・地元句会などで楽しんでおりますが、改めて清瀬紫紺句会を見つめますと句座の皆さんが明大卒という共通な接点があり、懐かしく暖かい絆を感じ、母校に誇りを持つところ。また紫紺句会をご指導くださる「隗」主宰の細見先生の旺盛な知識をベースに季語・言葉・表現方法を優れたご指導のお

陰で創作活動に幅が出るようになりました。更に佐藤副代表の労作「紫紺句集」で句友の一年分の成果を繰り返し読み、先生の採った句、点数の多い句を改めて参考にしております。中でも四季の写生と主観の働きの学ぶものが多く活用させていただいております。

芭蕉は遺書で俳句を「老後の御楽しみになされべく候」と述べておりますが、今では楽しむだけでなく百歳時代を迎え脳の活性化・ボケ防止に精神科のアプローチにとあらゆる面から俳句は見直され評価されております。この例から清瀬紫紺句会には世の中に善行を積んでいる事になります。いま各地域支部は会員獲得に苦戦中です。地域支部の句会に十五名の参加は稀で魅力的です。

これを会員獲得の好事例として善行の輪を隣接地域だけでなく多摩支部さらに全国の校友会にまで拡がることを願うものです。

清瀬紫紺句会の更なるご発展を祈ります。

(\*四月から第二木曜、午後二時から開催に変更)

### 新型コロナウイルスに注意しましょう

現在、日本国内いや世界中で新型コロナウイルスが大騒動となっております。

東京オリンピック・パラリンピックも二〇二二年に開催と異例の変更となりました。

幸い、まだ清瀬市内では感染者発生情報は聞いておりませんが、まだ治療薬が発見されていない現状では、各自が、大勢参加する催し物には参加しないとか、帰宅後は必ず手洗いとうがいと換気に気を付けるなどして注意をするしか防ぐ方法はありません。

皆様のご健康を祈念しております。

石田波郷俳句大会報告

佐藤 房夫(昭39工)

第十一回石田波郷俳句大会は令和元年十月二十七日(日) けやきホールで開催されました。

一般の部 二千五百五十句、

ジュニアの部 七千三百二十一句

新人賞九十二編(一編は二十句)

多くの応募がありました。

大賞は横浜市の佐野東隆さんの

「惜命となぞれば句碑のあたたかし」

清瀬市長賞は清瀬市の桂木酔郷さん

角川「俳句」賞は清瀬市の廣見雅子さん

「俳句界の芥川賞」といわれる新人賞と奨励賞は十五歳と十四歳の中学三年生でした。

またこの時期に第一回新人賞の西村麒麟氏並びに第三回新人賞・奨励賞の坂井諒一氏の二名が、俳句界最高の「角川賞」を受賞しました。

石田波郷没後五十年の年にこれらのことは大きなトピックであり、石田波郷俳句大会は今後ますます俳句界において注目されることでしょう。

大会では石田波郷没後五十周年を記念して、石寒太氏が波郷の長男、石田修大氏をお招きし、波郷の写真のスクリーンに映しながら対談しました。

今回は残念ですが紫紺句会からは入選者は出ませんでした。次回に期待しましょう。この大会のために、清瀬地域支部の



一般・新人の受賞者

皆さんには市内小中学校の俳句出前授業の応援、応募句のパソコン入力作業、そして当日の大会運営などに協力していただき無事終えることができました。ここで改めて御礼申し上げます。(写真提供・庄村勝男氏)

★第十二回石田波郷俳句大会について  
今回から開催場所が変更になります。

●俳句応募締め切り 令和二年七月三十一日 (当日消印有効)

●俳句大会

①ジュニアの部 令和二年十一月一日(日)

アミューホール

小学生の部 午前十時より

中学生の部 午後二時より

②一般の部 令和二年十二月十三日(日) アミューホール

講演・一般・新人賞・懇親会 午後一時より  
※開催日が二回となります。応募締め切り日は変更ありません。たくさんのご応募をお願いします。

【紫紺俳壇】



紫紺句会指導

のけ反りて天突く勢いちやうの芽

俳句結社「隗」主宰

細見 道子

紫紺句会

みどり児の目覚めのあくび春浅し

冬浅し螺鈿輝く五弦琵琶

賀状来ず寒中見舞来て笑顔

初午の日取り告げたるわら半紙

穴田 作道

粕川 偉三男

粕谷 彌太郎

小林 信夫

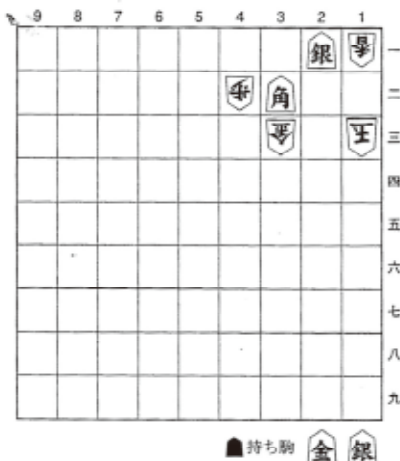
チャレンジ!

解答は次頁

手水舎の水温むなり官参り  
鯉吊るす手斧の梁の黒光り  
夢に見る日本各地の初詣  
子供らのほつぺ赤らむ春浅し  
陽たまりにつうたたねや四方の春  
春光や湧水池の雑魚走る  
主無き庭や虫待つ花八手  
美味なるや鬼の面持つ八つ頭  
老の春紙面にぎはす母校の名  
木の芽和ひたすらに呑む吟醸酒  
寄せ鍋やメガネ曇つて迷ひ箸  
枯れ葉舞ひただひそやかに肩に乗り  
番犬の微動だにせず空つ風

斎藤 強  
佐藤 房夫  
島崎 光  
中西 宣一  
中村 曠  
夏目 忠  
西尾 修一  
福島 寛  
榎谷 榮吾  
松江 康司  
溝田 充  
村野 良明  
山尾 久美子

詰将棋 (五手詰)



みんなの情報コーナー



- 一、清瀬地域支部イベント
- ① 第四回東京湾クルージング
    - ・夏季実施予定
  - ② 第十四回麻雀大会
    - ・八月開催予定
  - ③ 第十二回石田波郷俳句大会
    - ・日時 十一月一日(日) 午前十時より
    - ・会場 清瀬市生涯学習センター「アミューホール」
- 一般の部
- ・日時 十二月十三日(日) 午後一時より
  - ・会場 清瀬市生涯学習センター「アミューホール」
- ④ 第八回多摩湖ウォーキング
    - ・日時 十一月二十八日(土)
- 二、多摩支部イベント
- ① 定時総会
    - ・日時 六月二十八日(日) 午後一時より
    - ・会場 立川グランドホテル
- 三、校友会本部イベント
- ① 第五十六回全国校友大会香川大会
    - ・日時 大会 九月六日(日) 九時から
    - ・会場 サポートホール高松
  - ② 第二十三回ホームカミングデー
    - ・日時 十月二十五日(日)
    - ・会場 駿河台キャンパス

詰将棋解答

▲1四銀 〇2二玉  
▲2三角成 〇同金  
▲3一金 まで5手詰



そば処 玉川

そば・うどん・丼もの  
配達いたします  
宴会承ります  
(忘年会・新年会・食事会等)

そば・うどんは自家製麺です  
揚げたて天ぷらの美味しい店

営業時間 11:00～20:30

定休日 水曜日

住所 清瀬市上清戸2-6-28  
(郷土博物館となり)

Tel 042-493-3890

NPO法人



健康遊技たんぽぽ

○健康麻雀

午前の部 10:00～13:00 500円  
午後の部 13:30～16:30 500円  
一日の部 10:00～16:30 1,000円

\*入会金…1,000円

\*年会費…2,000円

☆セットのお客さま大歓迎(要予約)

清瀬駅南口から徒歩1分

清瀬市松山1-11-17 杉田ビル2階  
☎042-495-7708

杉浦整骨院

施術時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00～13:00	●	●	●	●	●	●	●
15:00～21:00	●	●	●	●	●	18:00 まで	18:00 まで

★ウィークデイは 21:00 まで  
施術致します

休日 火曜日

- 挫傷・打撲・捻挫・骨折・脱臼
- 各種保険取扱 ●(マッサージ・はり)

TEL 042-495-2337

清瀬市元町1-8-37  
清瀬駅北口前出ですぐ Pあり

POSターミナルの導入・開発支援など

有限会社 マイテック

粕谷彌太郎 (S28政経)

本店

〒204-0022 清瀬市松山1-27-1

Tel 042-492-0611 Fax 042-495-8357

本社事務所

〒113-0033 文京区本郷2-40-7

YG30ビル 6F

Tel 03-3813-7761 Fax 03-3813-7763

URL <http://www.a-mytech.co.jp/>

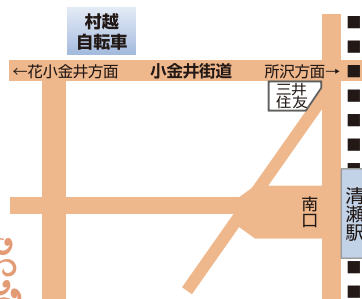
あなたの街の  
村越自転車

〒204-0022

清瀬市松山2-3-3

Tel 042-491-0349

村越 勝重(S50工)



海鮮居酒屋



清瀬南口店

ご宴会は50名様まで  
お受けいたします

清瀬駅南口 徒歩1分

清瀬市松山1-11-12

清瀬駅前ビル2F

Tel 042-496-0253

営業時間 16:00～翌3:00